

恵庭観光協会 設立60周年記念事業

2023 (実証運行)

恵庭溪谷 紅葉バス



【実施日】

令和5年

10月13(金)・14(土)

雨天決行

※暴風雨は中止

※恵庭岳公園線通行止めの際は中止

- 募集人員：10月13日／午前1便：30名
10月14日／午前1便：30名
午後1便：30名

※添乗員及びガイドが同乗

- 乗車料金 (往復 乗り場一律料金)

お一人様 1,500円

※参加料金に含まれているもの：バス乗車料金

※子供も同額 (子供料金の設定なし)

- 申込期間：令和5年9月13日(水)～10月6日(金)

《電話申込先》テイクサントラベル TEL 070-3312-1956

受付時間／9:00～16:00 (平日のみ) ※定員になり次第、終了とさせていただきます。

◎お申込の際は、参加される方全員のお名前・年齢・性別をお聞きますのでご用意の上、お電話をお願い致します。

■企画：一般社団法人恵庭観光協会 ■協力：富士交通㈱

■運営：テイクサントラベル 北海道知事登録旅行業 第3-655号

★ご参加の方には、アンケートのご協力をお願いします。

(バス運行への満足度・評価・改善点と希望のほか、市内施設への訪問欲・希望への調査です。)

◎ルート内容

前 午前便／はなふる《乗車》9:20 → はなふる《下車》11:55 恵庭駅《乗車》9:30 → 恵庭駅《下車》12:30
 後 午後便／はなふる《乗車》12:50 → はなふる《下車》15:25 恵庭駅《乗車》13:00 → 恵庭駅《下車》16:00

乗車場所①
花の拠点はなふる
センターハウス正面玄関前

前 9:20発 (9:10までに集合)
後 12:50発 (12:40までに集合)

はなふる
センターハウス
正面玄関前

かな
花ロードえにわ

花の拠点はなふる 恵庭市南島松828-3

乗車場所②
JR恵庭駅西口
タクシー乗り場付近

前 9:30発 (9:15までに集合)
後 13:00発 (12:45までに集合)

恵庭駅西口
タクシー
乗り場付近

★恵庭溪谷

ラルマナイの滝
駐車場

前 9:55着
後 13:25着

ラルマナイの滝
三段の滝
《散策》30分間

白扇の滝
駐車場

前 10:27着
後 13:57着

白扇の滝
《散策》40分間

えこりん村
ウエルカム
センター前

前 11:25着
後 14:55着

《トイレ・休憩》
15分間

下車場所①
道と川の駅 花ロードえにわ
直売所かのな前

前 11:55着
後 15:25着

《トイレ・買物・はなふる散策》
25分間

はなふるセンターハウスから乗車された方はこちらで下車、解散。

下車場所②
JR恵庭駅東口
東口車寄せ

前 12:30着
後 16:00着

恵庭駅西口から乗車された方はこちらで下車、解散。



白扇の滝

三段の滝

ラルマナイの滝

～乗車記念～
オリジナル
ポストカード
プレゼント



江戸時代から漁川上流で エゾマツの伐採が行われていた

17世紀ころ、恵庭をふくむ石狩低地帯は、松前藩の代表的交易品だった鷹の主要産地で、鷹を捕まえる「鳥屋場」が多くありました。蝦夷地で鷹や砂金がとれなくなると、木材が漁業と並ぶ産業として注目されます。

そこに目を付けたのが、先祖に武田信玄の家臣を持つ飛騨屋久兵衛です。大商人をめぐらして飛騨の国から津軽海峡を渡り、最初は福島町、知内町、木古内町で大木を伐り出し、宝暦年間には漁川上流にある空沼岳東山麓など石狩の山林でエゾマツの伐採を始めました。春の雪どけ水を利用して、伐り出した木材を漁川上流から石狩川の河口ま

で流送し、船で江戸や大坂に運びました。当時、木目の美しいエゾマツは「蝦夷檜」と呼ばれ、江戸で珍重されたのです。

漁川流域の木材伐採は、幕末から恵庭の主要産業のひとつとして続けられ、木材の搬出は漁川を利用してきました。1927年、水力発電所の建設資材を運ぶために、恵庭駅から漁川に沿って鉄道のレールが敷かれました。その後、鉄道は木材運搬用として使用され、年間に約14万石の原木を伐り出した時代もありました。

1955年には軌道が撤去され、やがてトラック輸送に代わります。いまま道道恵庭岳公園線(道道117号)沿いには、当時の鉄道跡がわずかに残っています。

恵庭溪谷の 美しい森と滝には 歴史とロマンがあります



エゾマツ、ナラ、カシワ、ハンノキなど原生林が生い茂る恵庭溪谷。

「義経黄金伝説」の地としても知られるなど、歴史や伝説が静かに眠っています。



恵庭溪谷から流れた水を、湖にためて生活水に

えにわ湖(漁川ダム)

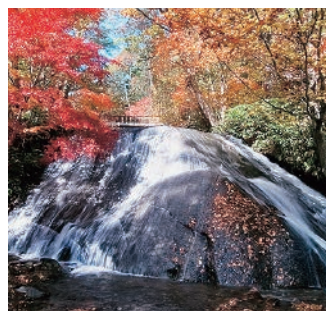
漁川ダムの建設によって生まれた人造湖。周囲の深い緑が湖面に反射し、なんともすがすがしい景観です。ダム堤の下流には広大な芝生が広がり、バーベキューコーナーやあずまやが整備された「自由広場」があります。また、ダム完成時に植樹された桜が成長し、春には大勢の市民が「桜公園」で花見を楽しみます。



その滝の奥には、秘宝が眠る伝説がある

三段の滝

オシヨロコマやニホンザリガニが生息する恵庭溪谷。市街地から札幌・支笏湖方面に向かい最初に見られる滝。三つの石段を滑り落ちるように流れる水面に木々が影絵のように映り、息をのむほどの美しさです。この滝の奥には、義経の財宝が埋められているという伝説の谷「熊の沢」があるとの言い伝えがあります。



板状節理の岩盤に、森林鉄道の線路跡も残す

ラルマナイの滝

どことなく苔の香りがして、日本庭園のような趣。滝にかかる橋からは、川底に続く溶岩の板状節理や鉄道跡を見ることができ、かつての産業が自然界に見え隠れする、なんとも不思議な光景が楽しめます。運がよければカワセミやカラスアゲハを見ることがもできます。

回 普13台、大3台



生き生きとした、みごとな水の舞が見られる

白扇の滝

高さ15m、幅18mの水流がしぶきをあげて流れ落ちる様子は、まるで白い扇のよう。雪解けのころの激流、真夏の清涼感、紅葉の艶やかさ、冬の氷瀑、どの季節も表情豊かです。北海道観光百景に選ばれたことがあり、恵庭溪谷第一の名勝地です。

回 普12台、大2台